

世界子どもクレヨン基金は活動の一部をしばらくお休みします。

共同代表 末永蒼生・藤井昌子

日頃よりお力添えを頂き、心より感謝申し上げます。

さて、私ども「世界子どもクレヨン基金」も今年は設立から5年目を迎えました。突然ではありますが、ここでしばらく一部の活動に関し、休止期間を持ちたいと考えています。

基金は2005年の設立以来、以下の三つのテーマを合い言葉に活動してきました。

1. 「届けます」(子どもたちへの画材提供)
2. 「広めます」(出版やメディアへの発信。展覧会やセミナー企画、ワークショップなど)
3. 「育てます」(クレヨン救急士養成講座、ボランティア養成)

基金の活動は設立した年に神戸で開催した展覧会および出版(『小さなクレヨン詩人たち』)から始まりました。その後、北淡震災記念公園内の保存館での大震災被災児絵画の常設展示の実現。また、国立オリンピック記念青少年センターなど行政からの依頼でボランティア研修を行うなど「広める」活動を行う一方、クレヨン救急士養成講座も3年間に約30名を送り出すことができました。韓国も含めると40名を越えるクレヨン救急士が誕生したことになり、「育てる」活動の方も一定の成果を上げつつあります。

一方、「届ける」活動に関しては、現在、中国四川省の大震災1周年に合わせ、クレヨン150セットを送る準備が進行しています。(協力:ペんてる株式会社。「四川省復興支援心の架け橋の会」との共同プロジェクト)

これまでの活動を振り返りますと、皆様の心あるサポートに支えられ、当初の勢いで走ってきた感がありますが、現実には常に資金難との戦いでもありました。特にこのところの経済状況厳しさの折り、先立つものに苦慮し、なんとかボランティアスタッフによる人海戦術で凌いできたように思います。

しかしここに来て、本来の活動を発展させるためにも、一度、充電期間を持ったほうが良いと判断した次第です。一応のメドとしましては、2011年1月迄、約2年間の休止期間を頂きたいと考えています。

ただし、「広める」と「育てる」に関しては休止しますが、「届ける」活動の方は折々に可能な限り実行していく方針です。

また、現在活動中の「クレヨン救急士」のためのサポート体制は今後とも継続をしていきます。

今後、「届ける」活動は主に東京事務局（ハート&カラー内）、救急士サポートは神戸事務局（「色彩樂園」内）で、互いに連携しながら行っていきます。

以上、まことに勝手ながら、上記方針を皆様にご了承いただきたくお願いいたします。

基金としましては、世界の子どもたちにクレヨンと心のケアの場を提供していく活動はこれからも地道に継続していくことに変更ありません。今後とも、皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

2009年5月1日